

# 農地中間管理機構を活用し農地集積を促進するため見直したプラン

しんごうむらへらい

(青森県新郷村戸来地域(H24.12作成、H27.3見直し))

## 《概要・データ》

地域の特徴	水稻と野菜等の複合経営が主体で酪農及び肉用牛経営が混在する地域。 地域内農家数160戸、地域内農地面積454 ha。
中心経営体	個別経営43名、法人経営 1
出し手となる農業者	28名《提供予定農地面積 24.1 ha》
農地集積	現状(H23)180 ha(集積率39%)→目標(H28)208 ha(集積率46%)

## 《特徴的な取組》

- ・ 高齢化が進行する中で、後継者不足や耕作放棄地が増加していることから、地域の農地は地域で守ることを念頭に話し合いを進め、担い手に農地を集積して耕作放棄地の増加を防ぐことで合意が図られ、平成24年12月にプランを作成した。
- ・ プラン作成後、新規就農者等の若い担い手への農地集積や農地中間管理機構の活用の位置付け等、これまで3回プランの見直しを行った。
- ・ 農地中間管理事業については、村産業建設課が各戸にチラシを配布して制度の周知を図るとともに、中心経営体等の地域の担い手には個別に説明して受け手に誘導し、農業委員会に相談に来た農地の出し手には、村産業建設課と農業委員会が連携してメリットを説明している。
- ・ 農地中間管理事業を活用し、プランの中心経営体と出し手のマッチングをして農地の貸付けを行っている(平成27年1月0.7ha貸付)。

## 《プラン作成・見直しの経緯》

- ・ 平成24年5月に村内農業者に対する説明会を開催。
- ・ 平成24年12月に検討会を開催しプラン決定。
- ・ 平成25年3月プラン見直し。
- ・ 平成26年9月プラン見直し(機構の活用を位置付け)。
- ・ 平成27年3月プラン見直し。



耕作放棄状態の農地を機構を活用し、中心経営体が借り受け整備した農地

## (新郷村位置図)

